

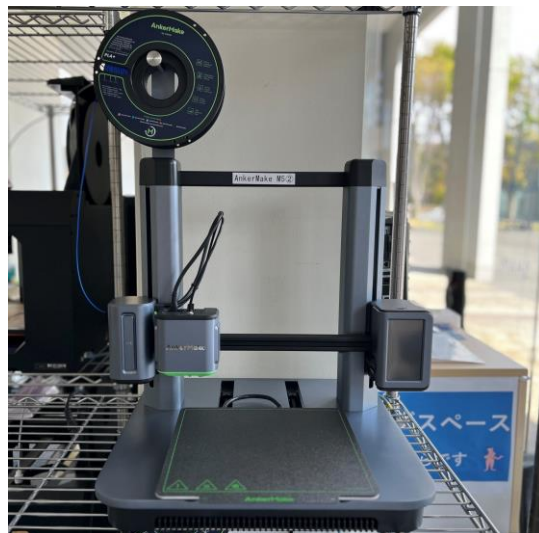
# AnkerMake M5 利用ガイド

## 1. 概要

このマニュアルではFABスペースに設置されているAnkerMake M5の使用方法について記載しています。また、AnkerMake M5の使用に際し、「AnkerMake Studio」を推奨のスライスソフトとしています。「AnkerMake Studio」の使用方法については「AnkerMake Studio利用ガイド」に記載していますので、そちらをご確認ください。

## 2. AnkerMake M5 の特徴

これまでFABスペースで利用可能だった3Dプリンターのプリント速度は150mm/sでしたが、AnkerMake M5はPowerBoost(TM)テクノロジーにより250mm/sでプリントを行うため、出力時間を大幅に短縮することが可能となりました。



## 3. 出力する3Dデータの準備

3Dデータ(stl、obj など)は主に以下の3つの方法で用意できます。

### ①ダウンロードする

Thingiverseなどの3Dデータを公開しているコミュニティサイトからデータをダウンロードすることが出来ます。

UltiMaker thingiverse: <https://www.thingiverse.com/>

※著作権侵害にあたるデータの場合は、ご利用を断らせて頂く場合があります。

### ②モデリングする

Fusion360、Rhinoceros 3Dなどの3DCADソフトでデータを作成することが出来ます。

### ③3Dスキャンする

3Dスキャナーでスキャンを行い3Dデータを作成することもできます。SFCのFABスペースではターンテーブルタイプ(Ein-Scan SE)の3Dスキャナーを利用できます。

## 4. AnkerMake M5 用のスライスデータの準備

用意した3DデータをAnkerMake M5 で出力できるスライスデータに変換するには以下の手順が必要になります。

①スライスソフト「AnkerMake Studio」に3Dデータを取り込む

② AnkerMake Studioを操作して、AnkerMake M5 の出力条件に設定を合わせる

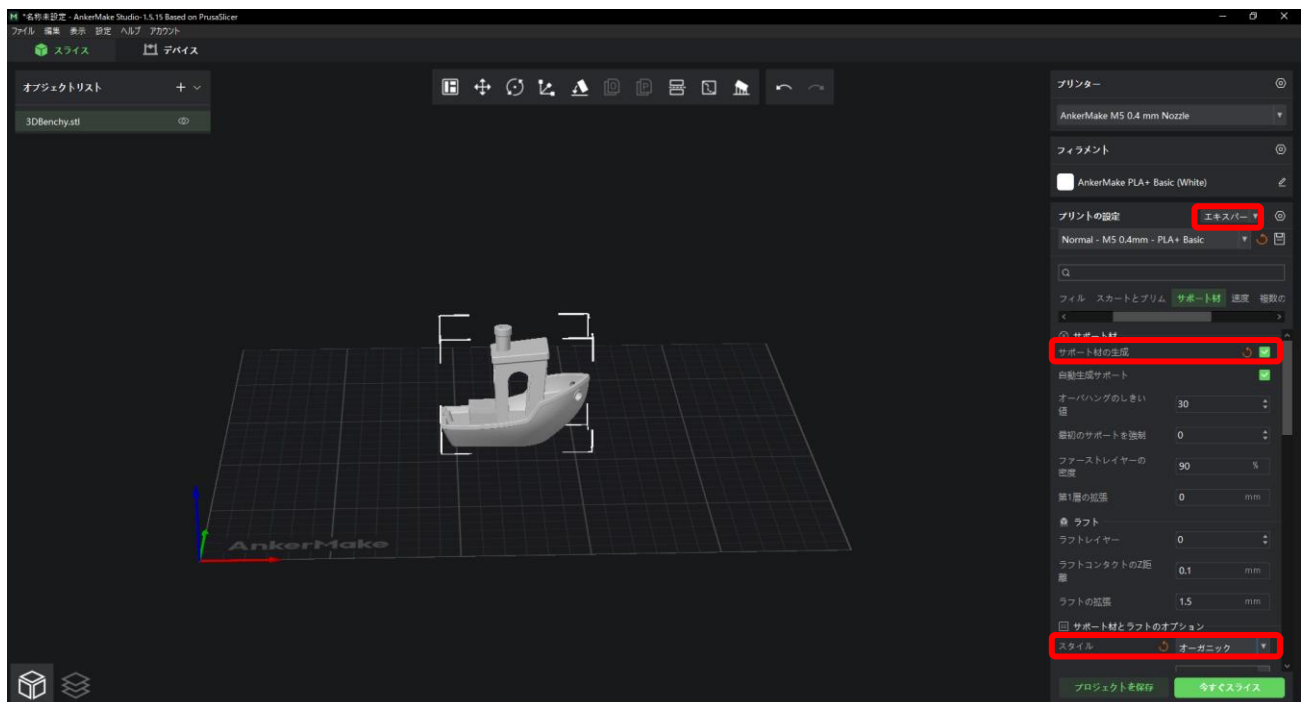
③スライスデータ(gcodeファイル)として書き出す

①～③の基本的な手順は「AnkerMake Studio利用ガイド」に記入してありますので、そちらを参照ください。

AnkerMake M5 で出力を行う場合の、出力条件は以下の通りとなります。

### 出力条件

- ・利用時間は5時間まで
- ・素材はPLAのみ利用可能
- ・サポートを付ける場合は「エキスパート設定」に変更し、「サポート材の生成」にチェック、スタイルは「オーガニック」にします。



## 5. AnkerMake M5 で出力する

①本体手前の電源スイッチをONにします。

①



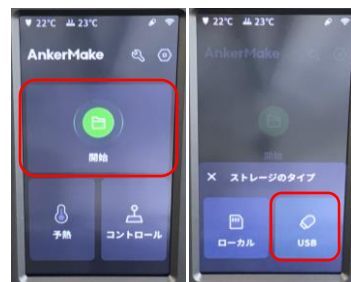
②スライスデータを貸出セットのUSBに移し、AnkerMake M5の本体のUSBポートに差します。

②



③本体ディスプレイのホーム画面の「開始」をタッチし、「USB」をタッチします。

③



④USBの中のスライスデータが表示されます。出力したいスライスデータをタッチして、プリントを開始します。

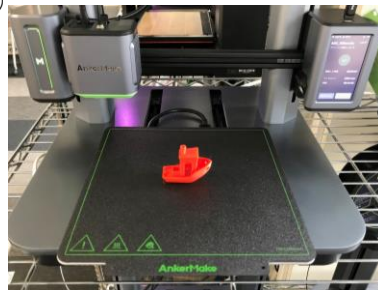
④



## 6. 出力物を取り外す

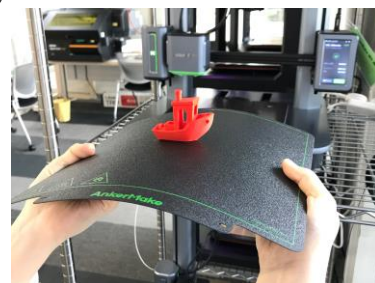
①出力が完了したら、ビルドプレートが手前に移動し停止します。ビルドプレートが高温になっていますので、ビルドプレートが冷めるのを待ってください。

①



②ビルドプレートが十分に冷めたら、表面のマグネットシートを取り外します。マグネットシートを曲げて出力物を剥がしてください。マグネットシート上の出力物を全て取り外したらシートをビルドプレートに戻してください。

②



③本体ディスプレイの「終了」をタッチするとホーム画面に戻ります。USBを取り外して、本体手前の電源スイッチをOFFにします。

③



④出力物に付着したサポート材やバリなどは、ニッパーなどを使って各自で外してください。